

新技術・情報名	推進部会名	蚕系
実施場所	三重県農業技術センター	
	分類	* ①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

本県における種繭の生産量は全国でも上位にあり、飼育の省力化、能率かによる一層の生産性の向上が求められている。近年糸繭用養蚕(交雑種)において普及しつつある稚蚕人工飼料育・壮蚕密植桑給与飼育の方法を原蚕飼育に準用して飼育試験を行い次の結果を得た。

ア) 稚蚕人工飼料育による飼育経過は日本種・中国種とも全齡桑葉育に比較して全齡で2日程度延長したが、4~5齡期給与の普通桑と密植桑による差は認められなかった。

イ) 取繭量は各区間に大差はなかったが、晩秋蚕期の健蛹歩合において稚蚕人工飼料育が全齡桑葉育に比べてやや劣る傾向が見受けられた。

ウ) 産卵性については各区間に一定の差は見受けられなかった。

2) 技術・情報の適用効果

稚蚕人工飼料育導入により稚蚕用桑が不要となり、壮蚕用桑園に転換でき生産性の向上が図られる。

3) 適用範囲

原蚕分場地帯

4) 普及指導上の留意点

中国種を人工飼料に採用する場合はその摂食性を充分検討する。

2. 具体的データ(図表)

表1 取り扱い方法

区 分	飼育方法及び取り扱い方法	
	1-3齡	4、5齡
全齡桑葉育 A	桑葉育1日2回 防乾紙育	普通桑園桑1日2回 桑葉育(簡易蚕舎)
稚蚕人工飼料育 B 壮蚕普通育	人工飼料育	"
稚蚕人工飼料育 C 壮蚕密植育	"	密植桑園桑1日2回 桑葉育(簡易蚕舎)

表2 飼育成績及び産卵調査

蚕期	系統	区分	飼育経過		1万頭当り 取繭量 kg	健蛹 歩合 %	繭重 g	産卵性	
			1-3齡 日時	4,5齡 日時				1蛾当り 粒数	種繭kg当り 産卵量 g
春 蚕 期	日 本 種	A	12,00	18,06	15.1	96	1.80	524	79.3
		B	13,00	19,00	13.8	93	1.78	548	73.4
		C	13,00	19,00	14.7	92	1.84	517	72.5
晩 秋 蚕 期	中 国 種	A	12,00	18,00	14.0	94	1.67	393	55.1
		B	13,00	18,06	14.3	96	1.61	439	64.3
		C	13,00	18,06	13.3	95	1.64	377	55.9
晩 秋 蚕 期	日 本 種	A	12,00	15,06	12.6	92	1.54	471	79.2
		B	13,00	15,02	12.4	87	1.48	474	82.5
		C	13,00	15,02	12.2	88	1.60	469	77.8
晩 秋 蚕 期	中 国 種	A	12,00	15,06	13.3	96	1.56	438	67.5
		B	13,00	15,06	13.0	92	1.47	439	78.9
		C	13,00	15,06	12.4	88	1.46	450	68.7

3. その他特記事項

研究課題名：稚蚕人工飼料育壮蚕密植桑による原蚕飼育試験  
 期間：昭和58-60年  
 予算区分：県単